

平成28年度第4回協働事業評価会

平成28年8月4日(木)午後2時

本庁舎6階 第3委員会室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、渡邊委員、衣川委員、竹井委員、伊藤委員、  
高橋委員、針谷委員、加賀美委員、村上委員、吉村委員

事務局：地域コミュニティ課長、小宮山協働推進主査、勝山主任

久塚会長 定足数を満たしておりますので、会議を始めます。

まず、資料の確認を事務局からお願いします。

事務局 では、資料の確認をさせていただきます。まず、資料1の①から③として、評価項目ごとの評価コメントの調整をお配りしております。

久塚会長 前回皆さん方からいろいろ意見をいただきまして、そして成果物としてはお作りしたものがあつたのですけれども、作業工程を入れたものとしてまた色刷りのものがあります。それを使って概括的なところ、変わったところ、それらを含めて事務局のほうから説明をしていただいて、具体的な中に入って少しずつ進めていきたいと思つたいます。

事務局 はい。資料1のほうなのですけれども、資料1の①、新宿スポーツ環境推進プロジェクト、こちらのほうが前回ご指摘いただいた部分と、あとは「いただく」という表現を使ったところが多かつたので、その言葉を削つた形に直してあります。そのほかの大きな変更としてはございません。

その次に、資料1の②としまして、商店街ホームページ活性化事業のほうなのですけれども、こちらもスポーツと同じように大きな変更はないのですが、総合評価のコメントの最後の段落につきましては変更しておりますので、こちら内容をご確認ください。

それから、資料1の③にいまして、働きやすい職場づくりの情報発信事業ですけれども、こちらは全体的に4という評価に合わせた表現に変更してあります。こちらのほうも合わせてご確認をいただきたいと思つたいます。

久塚会長 各自確認というわけにいかないのつで、順番に読んでいくことはしませんけれども、これでよろしいかということをお伺いしたいと思つたいますので、まず資料1の①につ

いて、案として示したものの、黒地にバーが入って赤字に変えたものが案となり、そして厚いほうのこの中に反映された形になっています。分厚いほうは合わせてごらんいただければよろしいのですけれども、1の①だけでいいということであれば、評価コメントということだけをお読みください。

まず、事務局からありましたように1の①については大きな追加はありませんけれども、1ページ目の一番下の評価コメントがこのような形になります。これはよろしいですか。

衣川委員 すみません。細かいことで申しわけないのですけれども、4行目なのですが、赤字を入れていただいたところですが、「子どもたちが」というのを「子どもたちに」に直していただいたときに「に」がちょっと重なっている印象になるのですけれども、「子どもたちにさまざまなスポーツを気軽に体験する」ということで「気軽に」というのを後ろに移動してはどうだろう。内容はこれでいいと思うのですが。

久塚会長 はい、それでよろしいですね。

各委員 はい。

久塚会長 読みやすくなりました。そういう箇所がありましたらご発言いただきたいなと思います。きょうは大分形ができ上がっておりますので。では、2ページ目の評価コメントです。赤字が一つだけ入って、ここは共通して言えることで、丁寧に「いただく」というような文章を残さないようにということで、「検討することが必要です」というような文体に変えたというものです。よろしいですか。

関口委員 はい。

久塚会長 では3ページの3。「区も」ということではなくて「区の担当課も」というふうに、よろしいですね。

では、3ページの下、「コミュニケーションを図りながら行われたもの」と、これもよろしいですか、ご指摘があったところです。これは伊藤さんからの指摘だったと思いますけれども、「通年」ではなくて「年間」で引っ張ることという表現に変えたということです。よろしいでしょうか。

では、5ページ、これも「いただく」という「設定し、それに向けた」でよろしいですね。

6ページ、これも「いくこと」です、を「期待します」。6ページ、よろしいですか。

はい、7ページ、「課題が残っています」、よろしいですね。

では、8ページです。8ページは多いのですけれども、「協議していくこと」に、それか

ら「どのように参加してもらるか引き続き検討することが必要です」。また、同じことですが「検討することが必要です」、よろしいですか。

関口委員 「検討することが必要です」「検討することが必要です」だったらあれなので、「してください」とかではだめなのですか。

久塚会長 「検討していただきたい」というのと「とめます」になっている。検討することが求められます。「ことが求められます」はやっぱ強い、よろしいですか。

関口委員 はい、大丈夫です。

久塚会長 今、関口さんからあった箇所ですけれども二つ、「検討することが必要です」と同じ文章の繰り返しなので、二つ目、すなわち下から2行目ですが、「仕組みづくりについての検討することが求められます」とします、いいですね。

では、9ページ、これも1カ所なのですが、よろしいでしょうか。

10ページ目です。単語としてはまた同じ単語が出てきていますが、項目が違っているので、あまり使い分けしないでこのままいきましょう。

10ページ目の下のところ、取り組む、これは「取り組む必要があります」。

11ページ目の裏側にあります、12ページ目、「通年」が「年間」という形になったということです。よろしいでしょうか。

では、前回ご指摘のあったようにきちんと指摘するようなフォームに統一するというのをしました。

1の②ですけれども、これは総合評価のところ少し、ホームページをつくるだけではないことがかかわってくると、そこはまた後ほど見るとして残りの部分をお諮りしたいと思います。

1ページ目、これは了承でありまして直しがございません。

2ページ目をごらんください。「本事業に限らず」で、「設定していただきたい」でとめる。「考えます」というのはやめるということですがよろしいですか。

では、3ページの評価コメント3ですけれども、「事業に取り組むことを期待します」、よろしいですか。では4ページ。ございませんでしょうか。

衣川委員 すみません、戻ってもいいのでしょうか。今の1ページ目のところなのですが、何も直していないところなのですが、下から3行目と5行目と「評価します」「評価します」と重なるのはあまり気にしなくていいのでしょうか。

久塚会長 偶然で「取り組んでいるものと評価します」。それから、「把握にも努め、さ

らなる事業の発展を期待します」。繰り返します、2ページ目、これもいいですね。指標も設定していただきたい、するための指標も設定していただきたい、ほしい、設定していただきたいでいいのでしょうか。まだいただきたいのだ。いただきたいと考えますではないからいいです。

3ページ目、「取り組むことを期待」、4ページ目は先ほどご指摘があったところですが、  
「していただきたい」という、これも同じ。

伊藤委員 「行うことを期待」でいいのでしょうか。

宇都木委員 うん、意見交換を行っていくことを。「意見交換を行っていくことを期待します」でいい。

衣川委員 すみません。「いただきたい」はこれ決まったのですよね、2ページの。何かこの上の青字のところをよく「望みたい」とか「希望します」とかそういう言葉を使わずに「いただきたい」という意味は使えるのかなとふと思ったので。ほかは消したのですけれども、ここは「いただきたい」で。

久塚会長 いや、まだきょう結論を最後とる瞬間なので、一番最後のところをどういうふうにしたらいいのかということも理由をつけて発言してもらえればそれで結構ですけれども、どうですか。

宇都木委員 「期待します」に戻ったって構わないのだ。「意見交換を行っていくことを期待します」でいい、そっちのほうが強いのだ。やってくださいということになる。

久塚会長 今、元に戻りましたけれども、事務局、いいですか。

事務局 「行っていくことを期待します」でよろしいですか。

久塚会長 うん、そのまま、赤を消して黒字。「行っていくことを期待します」、よろしいですね。

はい。5ページ、よろしいですか。

村上委員 すみません、これはうちの事業なのですけれども、十分に意見交換を行うことを期待しますと、どことどこの意見交換ということでしょうか。

4ページのところ、その前の3ページのところでは、定期的な意見交換を通して調整ができていますというふうに言うておいて、ここでもう1回4ページのところで「十分な意見交換を行ってください」と言われるのは、どこの部分の意見交換をさらにやってちょうだいと言われているのかがちょっとわかりにくいという。

伊藤委員 役割分担について区事業課と団体は、という印象なのだ、役割分担について。

久塚会長 お互いにそうするのですけれども、最終的には商店街の活性化ということを目指しているのではというのが4ページ目だと思うのです。

渡邊委員 適切であるという評価なので、その「今後も」のところは、例えば「引き続き」とかになるとわかりやすいのではないですか、区担当課との十分な意見交換が行われているわけですから。

久塚会長 「今後も」というのを入れると何かマイナスというか、今まであまりやっていなかったけれども、今後も今度ちゃんとしようみたいな思いでやってきたので、この調子で頑張ってくださいという意味合いを出すために「引き続き」というふうにするのではないかと。

村上委員 わかりました。

久塚会長 はい。5ページを読みます。よろしいでしょうか。よろしいですね。

これは、6ページは少し赤が入っていますけれども。

衣川委員 すみません、今の最後の最後のところですが、「今後は」の後ろの「協働事業提案終了後の姿も見据えて」というのは、後ろの「今後の」というところに持ってきたほうがいいかなと思ったのですが。「今後は、本事業が商店会の活性化にどのように寄与しているかについても団体と区担当課で共有し、協働事業提案終了後の姿も見据えた事業展開につなげていくことを期待します」と。「今後は」「今後は」というのを一つ句切つて。

久塚会長 本事業が商店会の活性化にどのように寄与しているかについても団体と区担当課で共有をし、協働事業提案終了後の姿も見据えて事業展開につなげていくことを期待します。

加賀美委員 協働事業実施終了後です。

久塚会長 さっきの「協働事業終了後の姿を見据えて」、そのまま「事業展開につなげていくことを期待します」でよろしいですか。

宇都木委員 はい。

久塚会長 では、7ページ。それぞれございます。黒で書かれた一番最後のところになりますけれども、「いただきたい」と、これでいいでしょうね。

8ページ、「いただく」を期待します、よろしいですね。

高橋委員 すみません。下から3行目の「いただく」を消してあるのですけれども、これは多くの方に見ていただくということなので、評価の対象の方に「いただく」というの

はおかしいけれども、こっちはいただくほうになるように。

久塚会長 そうですね。この場合の「いただく」は多くの方に見ていただくということなので「いただく」を使わせていただきます。

ほかには、9ページでよろしいですか。

はい、戻りましょう、10ページ目、よろしいですか。

11ページ目の前半、そのままですけれどもよろしいでしょうか。

関口委員 すみません、注釈なしでいきなりICTと出てしまうのでしょうか。ICTと言って通じるのでしたか。

事務局 総合評価コメントがこの形でいくと一番最後なのですからけれども、評価報告書になると一番最初に出てきますので、そここのところで注釈を入れたいと思います。

久塚会長 今のやりとり、最初に出てくる箇所でICTについての説明を入れるということなのですけれども、今みんなが持っている資料1の持っているのと順番が変わって、総合評価コメントというのが先頭に出てくる形で報告書をつくりますので、そこで今13ページにある箇所なのですが、この13ページにある箇所のICTという部分について、少し説明を入れるということをする。

その手続を踏むということで、11ページの上の段のICTというのはもう既に説明が出ているということで、課題は乗り越えたということで13ページに移ります。

13ページは実は赤がたくさんあって、この総合評価コメントというのが報告書の中でもそれぞれの事業の先頭のところに出てくるという説明はこれに当たる部分です。表現としては商店街の活性化ということが最終的には目指されるということになるのだけれども、このようなものについては得意な人ばかりではないということが課題としてあるので、その部分を書いてはどうかということの発言があって、この赤字のところをとというふうになりました。ちょっとご確認ください。

吉村委員 これはホームページをこれからつくっていく人の中にICTが低い方がいらっしゃるということについて書いているのですか、それとも使うほう、見る側なのですか。配慮し、ここで言っているのは、なじみの薄い方というのはどこを言っているのですか。

使い勝手をよくするというふうに、充実を求めているのか、つくるときにつくりやすい、資料などをつくりやすい方なのか、珍しいことがしたいのか、どっちの議論になっているのかという質問です。

久塚会長 だから、結局懸念をしていることは、ホームページづくりということを推奨

するような人たちは、十分いろんなことをよく知っている人たちです。その人がどんどん使い勝手がいいよというふうに進めていったり、充実させることというのはとてもそれ自体はいいのだけれども、その際に気をつけなければいけないということは、外から見るともそうだし、中でつくろうとする人もという。

吉村委員 両方のことをイメージさせる。

久塚会長 要するに、自分たちで楽しく先進的につくっていくことだけにおぼれてしまうと、最終的に活性化ということに達するかどうかわからない。一般の遠くのほうから見ている高齢者を含めて、外国人を含めて、に使い勝手のいいようになるには、見やすいものにする、活性化の問題的にはわからないのではないのでしょうかということだと思っておりますけれども。

自分たちだけというふうにしなればいいのかということだと思ふ。だから、少し厳し目のことなのです。

吉村委員 それによって多分この言葉がどちらがいいかというのが。

宇都木委員 我々の認識だと、このICTの前に一般の市民の中には、なのです。一般の市民の中にはICTが得意でない人も、一般の方はICTについて理解が十分されていない人もいるのだから、そのことも注意しないと、知っている人たちだけのことになってしまつては困るよ。こういうことだから、そこはそういうふうな理解で、わかりやすく言えば、この前の市民の中にはなじみの薄い人たちもたくさんいるので、その人たちに配慮しなければという意味を入れてもらえばいいわけだ。

久塚会長 あえてそういう言葉を入れないほうがほんわりして、入れてしまうと商店街でこれに、あまり得意でない人ということをおねらっていないようにも見えてしまうので、両方読めるような文章でよろしいのではないですか。実は両方含んでいるのだと思います。

伊藤委員 そうですね、その前のコンテンツの充実と合わせてというところと読み説いていくと両方の意味、つくっている人もあるだろうし、それを最終的に見る人もあるだろうし、両方に配慮したような言葉になると思う。

村上委員 だから担当部署はきつい言葉を言われているような気がします。

久塚会長 ああ。

村上委員 十分に周知はやってきているつもりですし、いろんなツールを使ってやってきている中で、今足りないのはやっぱりこの階層だろうということでこの協働提案事業に

のっけてきている経過がありますから、そういった意味で言えば、ここの部分で私が読んだときには、つくり手側の意識が十分到達していない人たち、商店街側のほうです。

やっぱりコンテンツは最新の情報にリニューアルしていかなければ見てくれなくなってしまいますので、せっかくお金をかけても捨ててしまうといった、そういうことをある程度十分考えながら事業をしてねという意味で、実はこの文章を最初に読んだときに受けとめたのですけれども、そうではない一般の方々がという前提になると、今までビジター運営数で、いろんなところを使ってやってきているものを、さらにもっとやれという話にはちょっとのれないなという話になってしまうので、ちょっと厳し目のお話になってしまうなという気はします。

久塚会長 ただ、やっぱりプレゼンテーションを私たち見せていただいたのですけれども、一般の人たちにアクセスしやすいというようなことを含めてかなり力を入れていらっしゃったのです。そういうことからいうと、やっぱり商店街と彼らが事業をやっているほうが、つくるだけではなくてというところにもらんでやっていたので、そうであれば最終的には商店街の活性化ということも含めれば、こういうことまで考えてもらえればいいなという希望ではないですか。

伊藤委員 アクセスからすると非常にアクセスしやすい。それで順序進んでその商店街、それから個店にどんどん入っていける。だから、一方で言うそのコンテンツの充実というのは今後の課題で充実していくのだろうけれども、そこがなされることと、この「新宿ルーペ」という言葉が認識されれば、「新宿ルーペ」とポッとやるとその全体像が出てきて中まで入っていきやすい形にもなっています。

村上委員 ICTになじみの薄い方という、その全体像が、人物像が見えないのです。

伊藤委員 そう、ICTになじみの薄い人はアクセスしないものね。

村上委員 そういう方だとやっぱり従来の紙型です。ペーパーでお知らせしたがほうが、マップとか歩き、まちづくりのウォーキングマップも含めてそういうものがやっぱり有効なツールではないですか。ただ、ターゲット層に対してそれぞれ分化して分けてやっているのだけれども、一番いいのはやっぱり今インターネットを活用する方々が圧倒的にふえているわけで、高齢になっても活用していただいている方が随分ふえていらっしゃる。このところが一番大きな派生効果がねらえるので、このコンテンツを充実して最新情報を常に楽しく見れる「新宿ルーペ」にすることによって、多分大きくその認知度が上がるだろう。商店街も違った側面を見てもらえる、そういう効果をねらうということだろうと思



うのです。

久塚会長 そうすると、表現方法はあれですけども、今、部長さんが言われたみたい  
に考えると、充実に合わせてその先に効果としてICTのこういう周りにも意味がないと  
か、遠くでない人にまで波及していくことを実現していただきたいという思いなのです。

だから、紙だとかいろんなものに多く依存していた、あまり得意じゃない方たちにも行  
く行くはというやっぱりイメージなのですけれども。

衣川委員 今話を聞いていて、ここをちょっとこの表現の仕方をちょっと考えたので  
すけれども、「ICTになじみの薄い方について配慮することは」、後ろのほうも「今後の  
事業を展開していくことを期待します」この前に入れたらいいかなというふうに思ったの  
ですが。「また、本事業が目的とするところは、『新宿ルーペ』を通じた商店街の活性化に  
あります」。これはこのままで、その後2行飛ばして「区担当課も」というところに次いっ  
てしまって、「区担当課も『新宿ルーペ』とほかの商店街支援策との連携を行うなど、より  
多くの人に利用されるよう認知度の向上に努めていただきたい。この事業がより有効に機  
能するよう、ICTになじみの薄い方にも配慮しながら今後の事業を展開していくことを  
期待します」としたらどうでしょうか。

そんな見る方もつくる方もそういうなじみの薄い方にも考えながら今後展開していけた  
らいいよねというところに、ちょっとここに入れたらどうかなというふうに。

村上委員 そうですね、私がきついと云ったのは、その「配慮し、事業に取り組む必要  
がある」というところがきついで。

久塚会長 よろしいですか、ほかには。今二つの事業が終わりました。では、三つ目、  
これについても同じ手順でいきたいのですけれども、前回ご欠席だった方がおられるので  
すが、次のような指摘がありました。

評価として4がついている箇所が三つあるのですけれども、この4の評価に合わせた評  
価コメントにもうちょっとシフトしましょうということです。それ以前のものが作業工程  
に残っているのですが、黄色とブルーをバランスをとりながら盛り込んだものですから、  
評価4よりも少し上のような文章、評価コメントになっているのですけれども、4に合  
わせる形でマイナス意見、課題という水色のところにウエートを置いたような形でコメン  
トを最終的に作成してはどうかという指摘がありましたので、事務局はそれを受けて作業  
をしたというのがそこにあるものです。

まず1ページ目の評価コメントですけれども、直しが多くなっていますが、この点につ

いて皆さんご意見ありませんでしょうか。

関口委員 これもさっきのICTではないのですけれども、総合評価のコメントの中で以下、WLBというふうに書いてあるので、ここではワーク・ライフ・バランスともうWLBと言ってしまうのではダメですか。

事務局 問題ないです。

久塚会長 もちろん今の指摘はもっともです。以下これと言うというふうに言っていますので、以下に。

はい、ほかに。

関口委員 もう一つ、いいですか。非営利活動法人というのが、いわゆるNPO法人を指すのであれば特定非営利活動法人が名称で。

1 ページのところの。「大企業だけではなく、中小・零細企業、非営利活動法人など」と書いてあるのですが、NPO法人を指すなら「特定非営利活動法人」なので、広くそういうNPO法人だけではなくて一般社団とか社福とかを含めた概念であれば民間非営利法人とか。非営利活動法人という法人格がないのです。だから、それだと、これだと何を指しているのかよくわからないので。

宇都木委員 一般にわかりやすい言葉にしたほうがいいから、みんなが聞いて、民間非営利活動法人なんていうことはどういうことという話もあるから。

関口委員 非営利団体でいいと思うのですけれども。

宇都木委員 NPOなどのほうがまだ一般化しているのではないの、表現としては、代表するものは。

吉村委員 いや、非営利団体にしたほうがいいと思います。NPOは狭いと思います。

宇都木委員 NPOというのはそもそも団体のことだから。

関口委員 いや、だから部長さんが言っているのは、日本社会だとNPOというとNPO法人を指すのではないかということですよ？

吉村委員 そうです、そういうふうに。

関口委員 そう、そう、そういう誤解が生まれるかもしれないので非営利団体のほうがいいのではないと、私もそう思うのですけれども。

久塚会長 では、零細企業など、点を入れて非営利団体などでいいのですか。

そして、その後はこのままです承、報告したとして。

ということですが、ある程度おさまったような気はします。もうあと持ち回りで

事務局とやりますから、よろしいですか。

では、2 ページの下の評価コメント、下の分のほうです。

宇都木委員 この上から4行目が、「設定した目標に対して、WLBの推進に」ではないの。「推進にどの程度寄与しているかの関連が不明確になっています」ではないの、「が」ではなくて「に」。

伊藤委員 「設定した目標が」だね。「設定した目標がWLBの推進にどの程度寄与しているか」だね。

久塚会長 目標を設定して、それに対して推進というものがどれぐらいパンチが効いているのかということをおうとしている文章だと思うのですけれども。

宇都木委員 WLBを推進するために目標を設定したわけでしょう、そういう意味でしょう、目標というのは。設定した目標というのはそういう意味でしょう。

久塚会長 成果目標として、セミナーや事例勉強会を開催数・参加数等や満足度、ホームページの閲覧、などが定量的にとらえられている目標で設定されていると。でも、その設定した目標に対して、WLBの推進がどの程度寄与することになっているかということとはわからないよということではないの。何人参加したとかそういうことを目標として掲げているけれども、そのこととワーク・ライフ・バランスに進めるということとの関係がわからないと。

宇都木委員 セミナーや勉強会はそれが目的ではないのだから。WLBを推進していくためにそういうものを行っているのであって、それがWLBの推進にどれだけ役に立つかという意味で考えないと、何のためにやっているかということになるじゃない。

関口委員 多分先ほど部長さんたちもおっしゃっていたように、成果目標という定量的にとらえる指標が設定されていると。物差しが定量的であった、これはいいよねと。でも、指標が設定されています。なんだけれど、その設定した目標が結局どれだけワーク・ライフ・バランスを推進したということにつながったかということが不明確でしょう。だから、その後のフォローアップの調査とかをして、具体的にそのセミナー参加者がどれだけ何かつながったのかみたいなのが必要だったよねということなのです。

宇都木委員 だから、それがだから「推進が」ではなくて「推進に」なのだ。この言葉で、ここに書いてある言葉でそのままやれば、だよ。設定した目標がWLBの推進にどの程度寄与したか不明確だと、そういうことだもの。

伊藤委員 この2においては、成果目標としてはちゃんと決めてある。けれど、その

成果目標は、新宿区が目指すWLBの推進にどれだけ役に立つ目標になっているの。幾らこの成果目標が100点満点であっても、このWLBの推進に対しては60から70ぐらいになっていかないのではないの。そこでとどまっていたらだめで、その後のフォローや何か、企業に帰ったときなんかが必要だったねと全体の流れ。

久塚会長 私、このワーク・ライフ・バランスの推進がというのは、むしろ一般的な言葉の使い方と、この事業の指している言葉と両方を意味しているみたいな複雑さがこの中に読めて仕方がないのです。ワーク・ライフ・バランス事業としての協働事業というものが、生産性本部がやると言ったその事業が展開したことによってどの程度具体的な参加者なんかの数と関係しているのかわからないので、結果的にもっと大きな意味での一般化されたワーク・ライフ・バランスということの効果はどうなっているかわからないという文章ではないの？その一番最後のところはここには出ていないのだと思います。

だから、数値目標があったとしても、この事業が言っていることがどの程度これに反映されているのかわからないということ表現しようとする、やっぱり難しい、国語的には。

それで、宇都木さんが言っているのは後半の部分でしょう、一般的な意味でワーク・ライフ・バランスというものにどう影響を与えているかわからないというのは最初と最後のところで。この協働事業の成果目標の設定ということなのです、評価をする対象は。だから、評価目標というのは、何人参加したとか、何をどれだけやったという、セミナーとか勉強会をやったということで、この協働事業の成果目標というものを見る項目なので、そういう項目で成果目標を設定したのだけれども、その成果目標として設定されたものがある程度何人来ましたとかになっているけれども、この協働事業としてのワーク・ライフ・バランスという推進が、どの程度その成果目標に影響を与えているかわかりにくいという文章というふうに読めて仕方がないのだけれども。

関口委員 やっぱり4の評価に近づけようとする、本来あるべきだった成果目標というのは、そのセミナー参加者のうち自社に帰ってワーク・ライフ・バランスに具体的な取り組みを始めた人の人数とか、あるいはそのセミナー参加企業から何とか認定制度に応募した申請企業数とか、ホームページ閲覧者のうち何か具体的なワーク・ライフ・バランスの取り組み、測定が難しいと思いますけれども、という目標だったよねと。ただ単純にセミナー参加者数ではないでしょうということをお願いしたいのではないのですか、これは。

この事業を通じて何か動いたというか、具体的にアクションが変わったということ成

果目標にしたほうがよかったのではないのということが言えればいいのではないかなと思うのですけれども。

加賀美委員 ちょっとそもそもワーク・ライフ・バランスが推進されたかどうかをはかる尺度として、この成果目標ということでセミナー、事例勉強会の開催数や参加者数という項目を上げました。だけど、振り返って考えると、仮にこの目標を達成したとしても、これがワーク・ライフ・バランス推進にどの程度寄与しているかがなかなかわかりにくい。だから、それを追っかけしながらいろいろ調査したほうがいいですよ、そういうことなのですよね、ここは。

伊藤委員 そういう感じだね。

久塚会長 本事業がこの数値目標ということにどれだけ寄与したかはわからないし、もっと言えば端的な意味でのワーク・ライフ・バランスにどれだけ効果があるかはということにはわからないという構造にはなっている。

3ページ目、2ページ目は事務局で整理します。3ページ目、セミナーや事例勉強会を通じてWLBの推進を図っていくという考え方については、認識は共有されているものと考えます。「しかし」をとる。団体は、この分野に対しては高い専門性と多様なネットワークを有しているものの、この「しかし」があると「ものの」が繋がらない。ものの企業への働きかけ及び追跡調査などは不十分であり、有効に活用し切れていないと考えます。また、区担当課としても、これまでにワーク・ライフ・バランスに取り組んできた状況を踏まえた上での課題について、団体との共有を図り、しっかりと協議していく必要があったと考えます、ここを削って。

事業目的を達成するためお互いの強みを再確認し、協議した上で事業に取り組んでいただきたいとめる。要するに協働ということでお互いのポジションというのがちゃんとあるということで、その強みは発揮してほしいということによろしいですか。

協働による相乗効果が発揮され、事業を進めていくことを期待します、これもいいですね。

吉村委員 はい。

久塚会長 5ページ目、これはあまり直しはありません。よろしいですか。

関口委員 ちょっといいですか。1段落目の下に「参加者は十分とは言えません」、「参加者数」。参加者は十分とは言えません。1段落目の、5ページ。

5ページの「また、事例勉強会についても開催時期が年度末に集中していることもあり、

参加者は十分とは言えません」、「参加者数」。

久塚会長 はい。同じページですけれども2行目、参加者数やアンケート結果による満足度、よろしいですか。アンケートによる満足度、アンケート結果に。

6ページ、よろしいですね。7ページ、セミナー参加者からのアンケートにより満足度を調査しており、満足度も高いことから、参加者に対しては一定の効果があるものと考えます。

関口委員 もっと「しかし」とか入れたほうがいいのではないですか。

久塚会長 うん、「しかし、この事業の目標を達成するためには、セミナーや事例勉強会に参加した方が」、これが先ほどの問題なのですけれども、「自社に持ち帰り、取り組みにどのように反映させたかを把握することが必要であると考えます」。「したか」ではなくて「させたかを把握することが必要であると考えます」、次は丸。そのための取り組みは不十分であり、課題が残りました。団体が持つネットワークの強みを生かし、企業へのアプローチを行うことが必要です。また、昨年度からの課題となっている中小・零細企業へのアプローチについても、具体的な取り組みは確認できず、課題が残ります。本事業を行う上での多様な主体の意見を調査することは特に重要であると考えますので、十分な対応を行う必要があります。「考えます」のどというのがちよっとある。「重要です」から。

宇都木委員 下から3行目の「具体的な取り組みは確認できず、課題が残ります」と、「課題」というより「問題」だ、「問題」。課題を解決する、課題に向かってアプローチする。したのだけれども、まだ問題が残っていますと。

久塚会長 課題が残るといのは違う課題ではなくて、課題として掲げましたと。それに対してはあまり働きかけたけれども、確認のもとで見えないので課題は残ったままです。ねという課題ではないのですか。

宇都木委員 だけど、なぜできなかったのかということのほうが問題になる。課題として上がっているのにもかかわらず、この取り組みが確認できなかったことは、なぜできなかったのかということが、ここは。

久塚会長 これも文章を預かります。

吉村委員 すみません、1行目なのですけれども、満足度を調査しており満足度が高いという言葉はしつこいのですっきりしたほうが。「アンケートにより満足度は高いことから」で通じると思います。

久塚会長 それも反映させます。8ページ。

よろしいですね。

各委員 はい。

久塚会長 9ページはよろしいですか。

関口委員 さっき成果指標としては、②のところを出すものの指標で、目標が設定されているという、ある意味肯定的な評価を書いていたはずなので、ここでは何かセミナー、事例勉強会、ホームページ、情報発信によりWLBの推進の事業の効果・成果をはかるための具体的な数値目標が設定されておらずというのが何か矛盾するような気もするのですが、けれども。

久塚会長 文章的にはさっきのところというのは、設定されたことということが、実現しているワーク・ライフ・バランスが推進されたということには言えないのではないのですかみたいな文脈で使っている設定なのだ。これはそうではなくて、事業の効果をはかるために具体的な数値目標が設定されていない。

だけど、さっきのは設定されたけれどもそれにつながらないということで、否定的に数値目標を見ている。数字はあると、具体的に。だけど、これ、ワーク・ライフ・バランスとの関係はわからないと。こっちはもっと抽象度が高くなって、求められる形での効果という形のものはないということ表現しようとしている。

関口委員 はい、わかりました。

久塚会長 だから、もうちょっと丁寧に言うと、あるべきワーク・ライフ・バランスの効果というようなことを広く考えると、そのための数値目標というのが見えませんかということ、この文章は。

伊藤委員 ここで言っている数値目標は設定されていないから、多分ワーク・ライフ・バランスの推進企業数、具体的な企業数、そこに踏み込んでくれた企業数のことを言っている数値目標だと思うのだ。

最初のときはいろいろセミナー数や何かを言っているけれども、ここはこの上の文章から拾うと具体的な数値指標は、ワーク・ライフ・バランスの推進企業数ではないでしょうかという微妙な触れ方だけでも。

衣川委員 今のところを削ってしまったらだめですか、2行目の「事業の効果・成果をはかるための具体的な数値目標が設定されておらず」というのは全部削ってしまったら、後ろに「効果・成果の把握が十分とは言えません」というふうに言っているのです、ここを削っても設定されたか、設定されていないかはちょっと言わないから。

久塚会長 ちょっとこれ、削って文章を読んでみると「ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいますが、効果・成果の把握が十分とは言えません」、それですっきりくるね。

関口委員 いいのではないですか。

久塚会長 はい。ではそのようにしたいと思います。10ページ。

関口委員 いいですか。最後の行の「これらのツールを活用し課題の解決に結びつけていただきたい」というのが、「課題」というのがこのWLBの普及が進まないという課題なのか、この事業自体の課題なのかがちょっとよくわからないので。「事業の成果に結びつけていただきたい」とかでどうですか。

久塚会長 うん、そうですね、そっちのほうがプラスですね。

はい、11ページ。

関口委員 こちもちょっと一つ提案なのですけれども、結びつきをはっきりさせるために、「昨年度から指摘されている課題について、団体と区担当課ともに把握はしているものと考えますが、解決に向けた具体的な取り組みはできません。団体・区担当課ともに課題解決に向けた認識を共有し、事業に取り組む必要があります」と。要は課題ですよ。

昨年度から指摘されている課題について云々で、団体・区担当課ともに課題解決に向けた認識を共有し、事業に取り組む。残り是一緒で、「団体と区担当課ともに把握はしているものと考えますが、解決に向けた具体的に取り組みを」。

久塚会長 いいのではないですか、これで。11ページ、これでいきましょう。

12ページ、むしろ総合コメントのところと最初とさっきの2番のところ。さっきの2番はやっぱり大きいのです。何をもって効果とするのかということも必要ですけれども、方法論の問題が最初にボンと出てきているから、2ページ目預かった部分とこの12ページを残りの時間で。2番のところは事務局預かりで、12ページ、ちょっと発言いただきたいのですけれども。

宇都木委員 ちょっといいですか。これ3年過ぎてしまったら、はい、おしまいになってしまうのではないかという気がして。3年過ぎてしまって、もうその後、このままではつながっていかないのではないかという懸念をしまして、やっぱり3年終了後以降に意識変えをやっぱりしておいたほうがいいのではないかと。協力してこのことはやらなければいけないのだよということ、相談した方法をつくってきたということ。

久塚会長 一般的な問題としてね。でも、3年間の事業だから。それ以上できないもの。



宇都木委員 いや、いや、3年間で何かが形づくれなくても次につながって行って、それがさらに延長して、今度はその取り組みを推進的にできる仕組みが区内にできていけば、これは一番いいことだと思うのです。これが協働事業というもともとの原点だと思うのです。だから、そののところをどうやってつながっていくように、つなげていくようにするかというのを少し書き込んだらどうかという。

だから、団体はこれで手を引いてしまうかもしれないけれども、行政だとか業界団体だとか、それこそNPOだとかそういう人たちが、引き続きこの問題について話し合える場をどうやって残していくか、つくっていくかというのが、今度の事業締めくくりにあたって大変重要な課題ではないかと思います。それをやってほしいなど。それをやってくださいよということをどこかでこう書き込んだらいいのではないかと思う。終わってしまうという、そしたら3年間やってどういう成果があったかなんて確認できずに終わりということになってしまうから、もう少し、これは簡単にできるものではないけれども。

加賀美委員 継続事業から外れますけれども、その後の事業展開をどうして行ってほしいかというのは希望として書けるかと思います。

宇都木委員 いわばこの課題になっている子育てとか介護だとかというのはもう問題化してしまってきていて、だからそういう状況の中でこのことをやっぱりかなり行政としても、あるいは社会的にも取り組まなければならない機運というのはもう出てくるだろうと思うのだ。せっかくここまでやったのだから、引き続きそういうことが取り組めるような環境をつくってほしいという要望は当然ある。だから行政がせっかくやったことをさらに発展させて、今度はもう少し一回り大きなものを、それが何かどういうのかわからないけれども、この段階か、何かそういうものをつくって推進するように、こういう機会によりいっそう推進していこうという報告書。

吉村委員 もう一定の見積もりが出ているので、あとはどういうふうに運用するかというものなので、もともと推進しているワーク・ライフ・バランスの事業とこれをどういうふうに組み合わせて担当課としてやっていくのがことし、来年度の予算編成に向けて今考えています。

久塚会長 では、15ページの下5行、もうちょっと見直してみますけれども、書いているように見えるので、この中に事業が終わった後どうのこうのというのは、それを少し入れ込むようなことを工夫して書きたいと思います。

では、その五、六行をもちっと預からせてもらいます。時間になったので、15ペー

ジのところ、ご意見がありましたらいついつまでにとこのをちょっと指定してもらって。

事務局 では、12日までにお願いいたします。それでその後、直したものをお送りするような形にします。

久塚会長 そうですね。文章を最終的にどうするかというのは、固めたものは皆さんにお送りしますが、私と事務局で作り上げてよろしいですか。

では、2番とこの最後のところ、ちょっと手直ししてみます。

各委員 お願いします。

久塚会長 では、ご案内がありますので事務局お願いします。

事務局 次の開催なのですけれども、1年目の事業の評価にかかわる委員の皆さんにつきましては、9月4日の日曜日、お配りしました事業視察のご案内のような形で1時にスポーツセンターにお集まりいただくようになります。

その次がまた提案審査会なのですが、9月5日の月曜日、1時に集合していただきます。その後、途中で1時半から区長への評価報告書提出を挟みまして、また2時からプレゼンテーションが始まります。その後、続けまして最終審査まで終わらせていただきまして、4時までの予定となっております。

久塚会長 よろしいですね。

では、次回よろしくお願いたします。きょうの会議はこれで終わりとなります。お疲れ様でした。

事務局 ありがとうございました。

— 了 —